第３回昭島市産業振興計画策定委員会

要点記録

日時：平成 28 年 11 月 18 日（金）
午後６時 00 分～８時 15 分

次　　第

1.　開会
2.　議題
　（１）ワークショップについて（報告）
　（２）昭島市の産業振興計画の計画案について
　（３）昭島市産業振興計画策定スケジュールについて
3.　その他
　（１）第４回産業振興計画策定委員会　平成 29 年２月 28 日（火）
　　午後６時から午後８時まで　市役所本庁３階　庁議室
　（２）その他
4.　閉会

配布資料

【配布資料】
資料１　昭島市産業振興計画ワークショップ実績報告
資料２　昭島市の産業振興計画の方向性（案）
資料３　昭島市産業振興計画の概要
資料４　昭島市産業振興計画策定スケジュール

出席者（敬称略）

委 員 長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所　教授・副所長）

副委員長・・・内藤博（事業承継センター株式会社代表取締役）

委　　員・・・幸田義康（昭和飛行機工業株式会社地域振興推進室長）、井ヶ田博（昭島市商工会商業部会長）、鈴木一昭（昭島市商工会建設業部会長）、水野宏一（昭島市商工会事務局長）、住元文和（信金中央金庫地域・中小企業研究所次長）、谷口昌平（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター上席研究員・複合素材開発セクター長）、大坪美枝子（公益社団法人東京都中小企業振興公社多摩支社情報交流係長）、鈴木勇作（昭島市農業生産団体連絡協議会会長）、今安典子（東京都農業振興事務所農務課課長代理）、小山美智代（公募市民）、高橋早苗（公募市民）、桑名美恵（公募市民）

事 務 局・・・永澤（市民部長）、青木（市民部産業活性課長）、東山（市民部産業活性課産業振興係長）、増田（市民部産業活性課・都市農業担当係長）、板谷（市民部産業活性課）、北原（市民部産業活性課）
嵯峨（多摩信用金庫価値創造事業部）、澤田（多摩信用金庫価値創造事業部）

欠　　席・・・長瀬透（昭島市商工会工業部会長）、國井俊彦（一般社団法人昭島観光まちづくり協会事務局長）

1.　開会

事 務 局・・・挨拶、資料確認

2.　議題

委 員 長・・・　第３回は産業振興計画全体の方向性を決定する。円滑な議事にご協力をお願いしたい。

事 務 局・・・　10 月 24 日にワークショップを開催した。委員８名を含む市民学生等合計２６名参加。①自己紹介と自身の産業活動を紹介②工業・商業・観光・農業のグループ分け③具体的な施策を、今後どのようにしていくか話し合った。
　さまざまなステークホルダーが参加し、交流ができた。今後も発展させていきたい。

委 員 長・・・　ワークショップの参加者で、商業関係の方から「地域に根差していく重要性や異業種で議論する場が、とても参考になったし勇気をもらった」という意見を得た。委員の皆様にワークショップに参加した感想をいただきたい。

小山委員・・・　グループのテーマは観光だった。様々な意見を聞けて有意義だった。次につなげていくにはどうすればよいか。

幸田委員・・・　大手同業者や異業種の方と話せてよかった。同じグループの他市在住の

学生が、昭島市のことを知らなかった。ワークショップで話し合った意見を実行し、知名度アップのために前向きに検討、実行し続けていく必要がある。

委 員 長・・・　観光で話し合った内容が多かった。また、参加者の問題意識からも認知度アップしていく必要性があるという課題がみえてきた。これらは中心課題として産業振興計画の概要に繋がっていく。

本日は計画の方向性を議論していく。資料２を見てほしい。大きな産業振興計画の柱としては、基本理念が必要。市が中心となり産業振興するためには、どんなまちにしてきたきのかを定めることが必要。この基本理念の下に、基本戦略として、それぞれの産業に共通する取組みがあるということは、前回の委員会にて合意いただいている。

今回の委員会では、各産業の中長期的な目標を策定する具体的な施策に意見をもらいたい。

資料３を見てもらいたい。基本戦略のおさらいであるが、①連携の推進が一つ柱になる。工業・商業・農業・観光による産業間連携で、昭島ブランドを確立し、広域連携を推進していく。②事業承継、創業支援が二つ目の柱。各産業の新陳代謝を促し、事業承継や創業を支援する。新しい事業者を生み出す環境を整備していき健全な世代交代を促進する。③市民に身近な産業づくりの推進が三つ目の柱。産業と都市の共存共栄を目指して、市民に対して各産業の認知度を向上させ、産業とのふれあいを増やしていくことが大切である。

計画の進め方の方針として、計画の主体と時期を明確にし「本気」で取り組むようにしたい。また、全方位施策ではなく選択と集中を行った計画とし、それに伴う評価と見直しを行うことは前回委員会で合意をいただいている。

では、①施策の方向性②基本目標③具体的な施策について各産業に対して意見を頂戴したい。

【工業（製造業・建設業)】

「市民にとって身近な工業となることで昭島の人財をつなげる」というテーマ。

事 務 局・・・　３点施策を挙げる。①市民認知・市民参加に重きをおいており、住工近在に伴う課題解決のため、市民に市内工業を知ってもらう取組み。②人財の確保・育成に関する課題。③人財の定着と活用。技術承継や従業員のスキル向上が、昭島の工業発展に必要になる。具体的な施策は資料参照。

委 員 長・・・　ポイントになるのは、市民に市内工業へ参加し、ふれあい知ってもらうこと。人の確保、育成、定着、退職者への支援を行い、活躍してもらうことで、昭島で働く人を増加させていく。具体的な施策等に関する、意見を伺い

たい。

水野委員・・・　商工会からの視点だが、今ものづくり産業の人材確保がとても困難だといえる。東京都商工会連合会がものづくり人材確保支援協議会を立ち上げた。市にバナー広告を依頼している事業でもあり、当該研修には１か月間時給1,000 円で参加することが可能になる。まだ成果には結びついていないが、事例紹介とさせていただく。

鈴木一昭委員・・・　建設業においては国土交通省で品確法の改正がある。3.11 の震災以降、人材不足が続いている。東京オリンピック・パラリンピックの開催もあり、多忙である。

　官も推進しているが建設業は３K の代表で、建設業は人材が集まりにくい。人材に向けての具体的な動きとしては、八王子市の土木専門学校の中にある、東日本保証協会という協会が、200 万円ほど予算をだし、新卒予定者を対象にした就職活動支援を行い、４～５人の実績がある。

人材不足は昭島だけの問題だけではないと感ずる。実際、市役所の技術職も減少している。

　地元業者が健全に発展していくためのビジョンがないと、災害時に対応できず困るのではないか。産業振興の面からはインフラ整備が重要である。

　昭島は下水道普及率もほぼ 100％（美堀町では、一部雨水管整備が必要だが）で、東中神駅が完成すれば、市内のほとんどのインフラが整う。

委 員 長・・・　人材の問題は、計画の中でも大切な部分である。

鈴木一昭委員・・・　官も応援してくれてはいるが、一番重要なのは、各企業の努力。中小企業は社会保険への対応が遅れている。人材確保するには、福利厚生の整備を行わないといけない。各企業の努力が重要である。

委 員 長・・・　いただいた意見は計画の中にも、入れていきたい。市民委員にとっては、工業という分野は遠いように感ずると思うが、どうか。

桑名委員・・・　遠い産業だと感じ、何をコメントしていいかわからない。人材確保に関しても、難しい状況なのだと感じる程度。市民参加は良いことだと思う。

幸田委員・・・　市民参加とは具体的に何を指すのか。

委 員 長・・・　既に取り組んでいる企業もあると思うが、工場見学や直接工業に触れてもらう事業を指す。

内藤委員・・・　例えば、練馬区では建設業の社員がひばりが丘公園で、１本 50 円程度で毎月包丁磨きイベントを実施している。刃物を研ぐということは、ものづくりの基本。昔はのこぎりとノミを研いでいたが、今はこのような小さなイベントを行い人に集まってもらい、同会場の中で企業に関する紹介も行っている。身近に市民と接点をもつ取り組みが必要。

鈴木一昭委員・・・　現在、産業まつりにおいて親子木工教室を開催している。毎年恒例で本棚

等の作成を行っているが人気があり、13 時には終了してしまうイベント。市民、特に子どもをターゲットに取り組んでいるが、今紹介いただいた包丁研ぎイベントは参考にしたい。

委 員 長・・・　産業まつりで既に行っている事業だけでなく、もう一歩踏み込んだ、施策としたい。学校へ出向く等、既に行っている事業を広げていくことも考えられる。市民にとって工業が近い存在になるような計画を策定したい。

谷口委員・・・　産業まつりに参加したが、子どもも大きくなると工作等には参加しなくなる。小学生から大学生まで、小さいころに興味があったものづくりへの興味を失わないようにしていくことがポイントになると思う。

委 員 長・・・　中学生以上の興味を引くためにはもう少し高度なレベルでのものづくりとのふれあいが必要だと思われる。

谷口委員・・・　授業の一環として、ものづくりを取り入れるのはいいと思う。

大坪委員・・・　いわゆる工業展は限られた人が対象となっており、産業まつりは一般市民が多く来場する場。人材確保については、若い人を採用している会社が人材募集する際には、写真等の展示や就活支援したりすることで、ＰＲする場となるのではないか。昭島の工業をカタログ化するということに関しては、紙媒体の場合、手に取る方が限定されると思うので、IT を活用しデジタルブック化する方が良い。HP においても深い階層に格納されると情報が入手しにくくなるので、現代に合わせた PR 方法で情報を発信すべき。

事 務 局・・・　カタログ化に関しては、IT も活用していく所存。

委 員 長・・・　それぞれの産業の職人＋技術などを特集し、工業だけでなく、他の産業と絡めた PR を行っていくことも検討している。

【商業】

「昭島らしさで魅力を向上し、新陳代謝で街のにぎわいを創出する」というテーマ。

事 務 局・・・　基本目標について３点挙げている。①既存商店の魅力向上。既存商店も外部とのタイアップや攻めの商業に取組み、外部へのＰＲ出来る環境を作っていく。②昭島ブランドの開発、販売。「あきしまの水」やフードグランプリ行っているが、目玉を作っていく。③若者の創業支援。新陳代謝を促進し、商業界に新しい風を入れる。

委 員 長・・・　既存商店と創業者の二方向からの考えを柱としている。二者共通の昭島ブランドの創出、空き店舗へ若い人を呼び込む、昭和の森との連携等、昭島らしさを盛り込んでいきたい。

井ケ田委員・・・　大型商業施設に PR の場があるのはいいが、市内に何箇所か分散しているので、個人店が出ていくのは難しい。地域ごとの施策が必要なのではないか。

資料の記載についてだが、『「あきしまの水」とフードグランプリを中心とする』という言葉尻では、協力は得られないと思う。

フードグランプリは、個店の PR の場となってしまい、昭島ブランドという一つのものになっていないと感ずる。やはり同じものを競わせないと駄目だと考える。また、フードグランプリに対する行政の支援が手厚いと感じており、産業まつり出店者はギャップを感じている。

個店の魅力とブランド作りは別ステージで考えるべきだと思う。既存店も頑張ろうとしており、支援対象にしていきたい。

PR していく必要はあるが、高齢の事業主は自分たちではもう新しい PR ができない。施策に入れていくことが大切なのは理解できるが、創業者は絶対数から考えると少数なので、多数の既存店に対する策も考慮してもらいたい。

商工会だけでなく、全体で考えていかなければならない問題であり、ここ 20 年が昭島市内商業の勝負時期だと考えている。

幸田委員・・・　大型商業施設であっても悩みはある。立川のららぽーとの影響を受けており、また新たにイオン進出の話もでている。モリタウンではそのような点を考慮して、両側にあったアーケードを改修し、流行っている店舗を新たに導入した。また人を呼ぶために毎週イベントを開催している。

昭島ブランドに関しては、かつて昭和館ならではの料理をつくろうと模索したこともあったが難しいとの結論に至った。フードグランプリは、テーマを決めて開催した方がブランドとしての確立ができてくるように思う。

委 員 長・・・　全体で共通の方針をつくって、昭島ブランドを作っていく方がいいとの意見が出た。

また商業全体としては、個店のやる気がある店舗を応援し周りへの良い影響を波及させていきたい。もちろん、セーフティネットとしての施策も必要であるとは思うが、この計画では選択と集中を行っていきたい。

井ケ田委員・・・　昭和飛行機工業(株)を中心としたどこかで集まれる場所といった意味合いの計画になっているように思うが、昭和飛行機工業(株)へ頼ってしまいすぎているように感じる。個店が集まれるような場を持ちたいが、その他の場所も視野に入れたい。例えば、官民一体で廃校になった旧拝島第４小学校を利用した商業関係のイベントを開催するのはどうか。多摩川が近く、自転車や歩行者を対象にした来場者を呼び込みたい。

委 員 長・・・　モリタウンだけを対象としているわけではない。

水野委員・・・　攻めの商業は、必要と感じる。先日、産業サポートスクエアで開催されたウェルカムデーに商工会員の和菓子３店舗が参加した。とても人気があり、途中で完売しても従業員が足りなかったため、製品が会場へ配送出来ない状

況であった。小規模・零細事業者の目線にたつと厳しい状況があるということを考慮した表現が計画の中に必要だと思う。

【農業】

「市民とのふれあいを増やし、やりがいと収入を向上させることで、持続可能な農業を目指す」というテーマ。

事 務 局・・・　基本目標については以下のとおりを挙げている。

昭島の農業を守っていくには、農家のやりがいと収入の向上が必要。相続対策や農地保全も含む。市民が「農」とふれあう機会の創出。

委 員 長・・・　農家の方々が農家を続けていきたいと思っていくには、やりがい、収入向上、製品化、ビジネスになっていかないといけない。市民が農業を理解し、ふれあっていくことが重要。担い手を増やすという意見もあったが、今回の計画においては、市民とのふれあいを重視している。

鈴木勇作委員・・・　市民と「農」がふれあう機会は、現状、田んぼや畑などの農業ボランティアがある。昭島には水田が残っているので親子米づくり教室を開催している。毎年申込数も増加している状況。また花農家に関しては、ポット詰めや種まき等体験したり、果実は消毒の実態を知ってもらう良い機会となっている。

委 員 長・・・　ワークショップで農業ブースに参加した方に当日の様子を伺いたい。

水野委員・・・　ワークショップでは、パパイヤの話が中心であった。昭島でとれるパパイヤを使って、化粧品を開発するような6次産業化のアイディアがでた。

委 員 長・・・　拝島ねぎや食べ物だけでない6次産業化はあると思う。農業が近くなる生活や街をつくりたいという計画についてのご意見を伺いたい。

高橋委員・・・　野菜が高騰している状況なので、場所の貸し出しと技術支援も含めた取組みが市民向けにあったら利用したい。

市報だけでなく市民の目につく場所で、PRしてもらうと情報が得やすい。例えば、最近市報を見るようになったが、フードグランプリのスタンプラリーについて言えば情報発信が不足している。駅や子供たちが集まる場所でPRしてもらうなど、もっと目につく場所に情報をおいてほしい。

鈴木勇作委員・・・　市民農園が市内に何カ所かあり、競争率は高いが、農地の場所を提供している。

委 員 長・・・　需要が増加すれば、市民農園を増やしたり、ほかの施策も立案したりすることができる可能性がある。

今安委員・・・　農家のやりがいと収入向上という計画の視点は良いと思う。東京都も都市農業活性化支援事業を行っており、パイプハウスや高度な養液栽培等を行う場合の支援を行い、経営力向上に資する事業である。ただし当該計画には市が具体的な施策を記載し、農家の経営力向上支援や設備投資支援等の言葉

を入れていく必要がある。農業の担い手の数を増やすのは難しいため、担い手の経営向上支援が重要と考える。

内藤委員・・・　６次産業化に関して言えば、東京都でも援農サポーターや専門家派遣に関して予算化が可能であると思う。問題は、農家の分母が少なすぎるため、予算規模が小さく、費用対効果が見えにくい。しかし、予算化をしたことで、市民へ還元されていることが実感できればよい。

【観光】

「施策の方向性は、連携のハブとして昭島のブランディングの中核を担う」というテーマ。

事 務 局・・・　①観光資源の開発と活用、②産業間連携と広域連携、③シティプロモーションの促進をしていく。

井ケ田委員・・・　何かの魅力が観光資源となれば潤うはず。昭島には魅力が多くあるが、市民が気づいていない。情報発信に課題があるように思う。個人的に、昭島の特徴は駅が多いことではないかと考えている。隣の駅が見えてしまう環境を利用したい。JR がこのような会議の場にいないのは何故かと疑問に思う。情報発信し、歴史街道のようなものができていき、商店がお茶所にもなる。

住元委員・・・　情報発信に関していえば大河ドラマの誘致は経済効果が大きい。漫画の「君の名は」などロケ地としての効果は大きいと思う。昭島を舞台にした作品があれば利用するとよい。

井ケ田委員・・・　昭島を舞台にした、野球漫画があるが休刊になっている。

住元委員・・・　漫画の聖地めぐり等も人気がある。

委 員 長・・・　コンテンツとして人を巻き込むネットワークがポイントになる。

幸田委員・・・　昭島観光まちづくり協会（ロケーションサービス）が、旧拝島第４小学校で AKB のプロモーションビデオを撮影しているが、見てみても昭島だとはわからない。

委 員 長・・・　ロケ地が物語のキーになればよいが、なかなか難しいのが実情。

内藤委員・・・　長野県が予算化に力を入れている事例を紹介したい。「地元検定」と題し、高校生に地元にまつわる検定問題を作ってもらい、合格者を県が認定する仕組み。合格者に、「昭島コンシェルジュ」のような肩書きを与えて、市民ボランティアとして動いてもらう。毎月の定例会議を行い、限られた予算のなかだが効果・波及が大きい。

限られた趣味などのコアな人だけを集めるイベントも重要。また、季節イベントも集客が見込める。地元検定と連携させたまち興しも可能だと思う。

長野県名川町の牧場ではウィスキー＆ビール祭りが開催されている。お酒という製品は付加価値が向上する。そのような知恵を持った人を昭島につく

る。知恵を持った人を昭島に増やす。

委 員 長・・・資料３へもどる。３つの大きなポイントがある。

① 連携の推進は、各産業共通のものを掲げて、全体で協力していく。広い視野の広域連携で取り組んでいく。知恵を持った人の連携、ネットワークがポイント。人が集まる場に連携が生まれる。

② 健全な事業承継の促進。既存の頑張っているところも支援するとともに、創業支援・事業承継に取り組む。

③ 市民に身近な産業づくりの推進。産業と都市の共存。各産業の認知度向上を目指すが、ただ情報発信すればよいのではなく、発信方法を工夫する。市民からの提案を受け入れることも、ふれあいに繋がる。

事 務 局・・・　行政主導ではない、プラットフォームをつくる必要があると考えている。前回行ったワークショップのような緩やかなイメージで、地域課題に対して各ステークホルダーが主体となる場。

委 員 長・・・　ただ計画を作って終わるのでなく、継続して取り組む場を提供していく必要がある。協議会や委員会ではなくフラットで実践的な形式の集まりにしたい。

谷口委員・・・　昭島市内の方に知ってもらうことが中心なのか。世界・日本中へ知ってもらう必要があると思うが、具体的にはどこに PR するのか。専門部署や言語も重要である。

委 員 長・・・　昭島だけと限って考えているわけではない。

小山委員・・・　産業まつりやフードグランプリは、昭島市の人だけで完結しているように思う。昭島には、例えば「鳥人間コンテスト」等、遠くから来てもらうようなイベントがない。産業まつりとフードグランプリは、なぜ同じ日に開催するのか。現状、食べ物やステージに人が集まっており、産業まつりという名の市民まつりになってしまっていると感じる。木工教室を大規模にしたり、就職相談会などを併設したりして産業色を出すのはどうか。

青木課長・・・　産業まつりとフードグランプリは設営費用の関係で同日開催となっている。飲食が目立ってしまっているが、各産業のブースも出店してはいる。

委 員 長・・・　どこの自治体も昭島市産業まつりのような感じになっている。人に来てもらうには、飲食は重要である。一方で小山委員の指摘も重要である。検討・工夫の余地は多いにある。

大坪委員・・・　プラットフォームのアイディア、廃校活用も良いと思う。一例だが、学校を活用するので、飲食店の方に給食を提供してもらい、評価をもらうのはどうか。地域へのＰＲと店舗の営業に繋がっていく。また、木工教室や相談会を行い、企業を PR する場とすることも可能ではないか。

常設の場で有れば、随時相談、営業の場とできる。

農業は、野菜販売や園芸教室など、様々なことが行える可能性がある。

井ケ田委員・・・　山梨県北杜市にある「おいしい学校」の事例がある。同様のことを檜原、青梅でもやっており、昭島市でもできるような可能性を感じている。

大坪委員・・・　介護業界では、「大人の学校」という事業がある。高齢者向けだが、介護職員にとっても、利用者にとっても評判が良い事業。

委 員 長・・・　産業をぎゅっとまとめた事業はプラットフォームにも繋がっていくのはないか。

鈴木一昭委員・・・　建設業からの意見だが、昭島市には最重要な課題はないと考えている。かつて、井ヶ田委員など仲間と一緒に、昭島市の魅力を歴史的、地理的、環境的に検討したことがあるが、昭島の魅力は「あきしまの水」にたどり着く。「あきしまの水」をブランド化したい。「あきしまの水」をトップバッターにしたい。

委 員 長・・・　廃校利用もすぐにできるものではないので、継続的に議論し、実行する場として、プラットフォームを計画に入れたい。
産業振興計画全体を総括するキーワードのヒントをいただきたい。

内藤委員・・・　「水」にかかわるキーワードはどうか。

井ケ田委員・・・　「持続可能な」続けていけるのが願いである。

内藤委員・・・　「バランスが取れている」「調和のある暮らし」

大坪委員・・・　「豊かな」

井ケ田委員・・・　事例として「今さら熱海」のような、自虐的なフレーズ。

今安委員・・・　「潤いのある」。話は少しそれるが昭島の水は買うことはできないのか。

永澤部長・・・　「あきしまの水」は、都水道の関係や取水制限があり、営利目的のペットボトル販売は行わない。

委 員 長・・・　「あきしまの水」は生活に密着しており、市民しか利用できない。
住むか来てもらうかという限定された貴重な水。
今回、議論したことをベースとし、全体の方向性の合意としたい。

3. その他

事 務 局・・・　今後のスケジュールは、12 月末までに、事務局にて計画（案）を作成。12 月末から１月初旬に、委員へ提示。１月中旬までに、計画（案）に対する意見を伺いたい。1 月 20 日から約１か月間、パブリックコメントを募集。２月 28 日第４回委員会にて最終計画（案）を提示する。

事 務 局・・・　第４回委員会は、平成 29 年２月 28 日（火）18 時から 20 時に開催する。

4.　閉会

委 員 長・・・　本日の内容について、また追加の意見等あれば事務局へいただきたい。